

續談海

四十九

| | | | |
|-----|---|---|---|
| 和書門 | | | |
| 八 | 六 | 三 | 三 |
| 函 | 四 | 冊 | 號 |
| 五 | 一 | 九 | 〇 |
| 冊 | 架 | 函 | 號 |

| | | | |
|------|---|---|---|
| 内閣文庫 | | | |
| 五 | 〇 | 函 | 架 |
| 八 | 六 | 三 | 三 |
| 冊 | 五 | 〇 | 架 |
| 和 | 書 | 類 | 號 |

| | |
|------|---------|
| 内閣文庫 | |
| 番號 | 和 8633 |
| 冊數 | 50 (49) |
| 函號 | 150 93 |



綴じ部(喉部分)の文字等が開きが不鮮明な場所あり

天
一
八
月
所
用
者



明治十一年購求

丹
後
書

山
村
信
信
書

牧
野
豊
吉
書
安
政
源
正
書
此
書
札
母

六 多賀之介
 六 市川揚子
 六 飯室三平
 六 徳田隆之助
 六 河村小吉
 六 尾谷今八
 六 杉平春公
 六 河地小吉
 六 白川三平
 六 杉枝左衛門

四 甲田三平
 四 杉本小吉
 六 伊藤田三平
 六 三副徳助
 六 杉原半吉
 六 窪田三平
 六 金橋左衛門
 六 杉原三平
 六 白川三平
 六 杉枝左衛門

一 中務令九序
 二 伊豆九序
 三 少内九序
 四 吉原九序
 五 新元九序
 六 免九序
 七 安終九序
 八 富官九序
 九 吉山九序
 十 海津九序

新大甲端

一 呂氏日九序
 二 永井九序
 三 川井九序
 四 春田九序
 五 角南九序

(Faint bleed-through text from the reverse side of the page)

山腰抄方

本多の求
江本源堂

浪衣

右

大物之柳

は元板

は右位 山判

お勅の舟

右因防

は山花

洋流 古舟

十の木の根

ねむけ

芋のふん

園子中

ねむけつらつら

けしき 草花

きりぎりす 花中

はな 月代

わらわに

同人

かゝるにけりあすのつれよきと
しるはにほてい和尚ありき

高麗月

とあしづねのさるるあはれ
くさたをちもくあつ月年

生苑の梅枝とんく

やう梅をさるるあはれ
苑のさるるあはれ

當世行

怪薄成就為役人

兼典率馬耶郭夢

家人不殘如日庵

御役楊後似改易

一 九月所用書

月防書

防地若壽 兼京伊防書

備後書

牒地若防書 村上二十席

六田園防書

牒平河三書 防地若防書

一 同 朔月並一書札

津白書院

高智書札

松平若防書

陽坊書札

松平若防書

若防書

高智之礼
隱形之礼

古之弟又以序
小之弟亦以序

紀伊前中細之及倭志
名以志古有之
尾澤夫何之及倭志

尾澤之及倭志
石河伊之及倭志

完之及倭志
尾澤之及倭志

九月二日
九月二日

同
同

金
金

金
金

右日光
右日光

右大和
右大和

其卷石

时夜之羽成

加夜佐偏支

右日光 少李札东乃以歌

右少志中少利症相欲相欲

一 同十日 沛症同

大板沛既代 户田園楠香

古伎后使言死况

右影 比古比 比牙

一 同十日 雨之同保精

为我之水

存多来月 於上野

澄明院杯字四法忘少法口中氣由比

比升一有 大相言反比比後一着の着虎

侍症

同十日 月垂 一法礼 吾一

所身言院比役後比比

金草

白園楠香

芭物出金草

第一花

同人

金西枝光也

金三

高智の事

安政楊侍書

隱舟の事

安政の事

名代

中橋の事

随百五院の上

高会

大久保の事

金重
中橋の事

但物もはるる

有徳の事

少初人様

随百五院の上

高会

金重

最

芙蓉の事

用物

白能の事

在...之...
...
...
...

一日七...
...

...
...
...
...

...

一日...

...

...

元級

中...

...

...

...

...

...

...

...

侍元照見

上秋淨心之病

求智之荒

交代書

生約介之屏

一廿日

清庭之同

高

有子之望情

如友依海書

田老十七

清庭

清庭

生約介之屏

右轉傳存

清庭見

一因廿一日

此有之及於言「以後成其」此如悟者
後因國利而為古抄法也「公若子身」

東山先生

一月廿九

羽田岡

大坂津城代

金三万両

戸田岡藩書

右通 津信之次郎 江守中 戸田岡藩
岡藩書及之件

一月廿六日

津信之次郎

浪下校
綿下右把

別院羽之重之次郎

随臣筆院書

大初全極名

浪下校

右江上系舟之重之次郎

津信之次郎

院書

津信之次郎

直島院

坊名

和日或絲

寄

直夜只司

精川家傳

古杖柳村寺

法代也甲

吳第子弘公海款

坊名也

古之保

海子款

右是也板濟城代為門海長也
用之有傳後考殿之信也

一國也

法控也

坊名也

隨之樂院宮

右是上系法也坊也

西御之間法也

一九月廿七、日、陰、晴、
九月廿八、日、陰、晴、

五、
成

了、下、北、百

免、勤、走

岩、尾、以、行、者、人

金、二十、五

右、手、信、由、中、信、所、到、矣、
幸、甚、甚、
幸、甚、甚、

右、手、信、由、中、信、所、到、矣、

一、同、友、人、月、事、一、出、礼、也、

一、於、奥、以、終、也、

許、便、友、同、情、書

渠、校

田、光、所、以、記

右、九、月、行、行、稿、料

右、以、上、更、無、也、

一因九

御臨向

荒乱

根三枝

相并言

右三枝危重... 序... 卷... 并... 志... 相...

中... 下... 海... 古... 信... 宗... 公... 氏...

右... 左... 右... 左... 右... 左... 右... 左...

一... 二... 三... 四... 五... 六... 七... 八... 九... 十...

一九月

新... 村... 比... 岳... 岳... 岳... 岳...

一因

分... 时... 比... 岳... 岳... 岳... 岳...

如... 如... 如... 如... 如... 如... 如... 如...

一因

右... 山... 山... 山... 山... 山... 山... 山... 山... 山...

志候。皇國。此。Sunderman. D. J. 18
高。 1850年。 1850年。 1850年。 1850年。

一。 1850年。 1850年。 1850年。 1850年。

一。 1850年。 1850年。 1850年。 1850年。

一。 1850年。 1850年。 1850年。 1850年。

一。 1850年。 1850年。 1850年。 1850年。

一。 1850年。 1850年。 1850年。 1850年。

一。 1850年。 1850年。 1850年。 1850年。

一。 1850年。 1850年。 1850年。 1850年。

一。 1850年。 1850年。 1850年。 1850年。

一。 1850年。 1850年。 1850年。 1850年。

一。 1850年。 1850年。 1850年。 1850年。

一。 1850年。 1850年。 1850年。 1850年。

一。 1850年。 1850年。 1850年。 1850年。

一月十日申酉

王麻氏

三井寺

山村信隆

伊賀守

曲淵甲斐守

井上高直

井上河内守 安房守

安房守

一月初

月五日

法皇書院

松平主水

利物

松平主水

利積

生利

生利

野口

信水

信水

一今日

大初之極 萬所見之為佳也且此凡
以年子之也指在貴竹柳生至極正
之極也

一月六

多谷
房我 主水

右之

院明院極 法法之中動而極也

為也之極至極之極

一月四

法皇書院極

陽也

松平或起之極

松平或起之極

右同性或起之極不為極也我法皇也
宿身表生也 宿身表生也 宿身表生也
二十月極也極也極也極也極也極也

少別在王殿以下後

因序

老史

松平武敏備

後松平大任

右史

右史記事 少別在洋殿後

其書同

松平武敏備 政一

右史系下皆後收何者中成致事 乃因記

少別在洋殿後 記事 乃因記

香海川 園本為少史 乃因記

右史記事 乃因記

記事

一因少 記事 乃因記

乃因記

一因少 記事 乃因記

上流之村也

杉本和堂

大坂

山本

石井

伊田

若尾

永井

羽田

寛

荒木

湯井

杉本

三田

松子

久野

大徳寺

伊豆左下

神谷左下

伊豆左下

伊豆左下

伊豆左下

伊豆左下

伊豆左下

伊豆左下

伊豆左下

伊豆左下

伊豆左下

伊豆左下

伊豆左下

伊豆左下

伊豆左下

伊豆左下

伊豆左下

伊豆左下

伊豆左下

後北條氏
平河守
形

○ ○ 相模守
○ ○ 妻木村

秀
初房因幡守

○ ○ 能勢方
○ ○ 佐子

○ ○ 福村
○ ○ 中台

○ ○ 西
○ ○ 市

○ ○ 招
○ ○ 守

○ ○ 水
○ ○ 谷

○ ○ 中
○ ○ 入

○ ○ 甲
○ ○ 子

○永井 安江序

○片山 与次序

○榎本 忠雄序

○榎本 玄行序

○高川 金三序

○澤 玄次序

○長谷川 忠雄序

○中野 隆吉序

○奥村 善吉序

○中村 吉太郎序

○上野 信也

○後藤 洋次

○中根 善吉序

○上村 方

○榎本 忠雄

○佐野 忠吉

○徳田 玄吉

○榎本 忠雄

○榎本 忠雄

○有泉 忠吉

○ ○ 杉本 芳以序

○ ○ 左田 孝以序

曲 剛 徳 治 序

○ ○ 菅田 隆之介

○ ○ 石原 精之助

○ ○ 少妻 中重

二九

五村 忠三郎 序

○ ○ 林 徳重

○ ○ 吉田 隆之助

桂田 隆之助

○ ○ 田代 朝平 序

○ ○ 根 隆之助

池田 隆之助

○ ○ 中山 吉徳

○ ○ 林 徳重 序

橋 隆之助

○ ○ 杉本 一 中

○ ○ 橋本 隆之助

杉本 芳以 人

一因七日

右側之標法種年之耐有也

此單之流法類

上松澤山古物

右側之通當生丸依嫡子中智之備卷子
以流丹之古物中一此別在皇殿之古物也

一因十日

海平段

上度松平古物也

松平古物也

右側之松平南海年古物也古物也古物也

斷法之同

古物也

石川古物也

右側之古物也古物也古物也古物也

古物也古物也古物也古物也

一因十一日古物也古物也古物也古物也

古物也古物也古物也

林林一色可也

所極也之極也各主殿以後之極也

一因女之

梅一因

上校漢公之極也

第者

千坂市

口中書之極也

神谷法皇

若色澤為古者女他極中極之極也

長色也若此也之極也之極也

一因女之

中極也之極也

中極也之極也

口中書之極也

古田之極也

中極也之極也

古田之極也

海中書之極也

右記
去ん廿二日移住
所如序了多村西の舟

右主殿及び忠告在洋船中候

一回其

日並く先令

一日並く先令

一月廿二日夜三時比在板倉并谷口先令

西井因揚子屋敷より舟中候に在候

高直り町分幸中り候

一月廿二日

高直り

たれあふみしれるみ

一の物持り

元

うらるれ

あふみ

奇花玉物

羽園の風を

あまのついでに
あまのついでに

高海神歌

あまのついでに

あまのついでに

高河原已哉

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

一月所用書

大如書 佐藤書 東京伊藤書

丹後書 牧野書 折生書

阿波書 和申書 伊波書

一月所用書

丹後書

大如書

大如書

各書

大如書

大如書

大如書

大如書

大如書

大如書

大如書

大如書

大如書

右一箇上は身首別種員人上は後

漸弱同

先記

秋北律

梅凡 順外

金半

右法列尾別種列川上は重信日編

右法列上は重信

右法列見方後少は重信律順上は

一今口所上は信持上は上は道下は信

成備射上は信持

一同

信持

信持

時

中

右法列上は信持上は信持上は信持

右法列上は信持上は信持上は信持

右方和子也... 德在... 德在...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

右方...

吉田 伊豆守

松田 市三郎

中野 平次郎

清北 伊豆守

伊豆 平次郎

相模 曾公序

新庄 吉

松川 藤吉郎

伊豆 平次郎

信田 徳吉郎

三浦 吉三郎

左方...

二見 吉

中根 吉三郎

大井 吉

永井 天徳吉郎

中野 吉三郎

大井 吉

松川 徳吉郎

松田 吉三郎

久西 徳吉郎

子博の由り

少言

永井監物宛

三枝源

杉平

佐原

如所

富沢

右流神古物
右流神古物
右流神古物

美濃

中津

岩中

時

右流神古物

所是古物

時

岡人

右流神古物

右頁

金叢
時之

柳生至徳正

此處在信濃

金叢与正序

右頁

時之

同人

右頁 別段

此處乃秋分節

金叢

本村吉平序

右頁

浪之

同人

右頁 別段

浪之

中山三郎

浪之

右頁

金叢

加茂長平

此處在信濃

羽黒桂九郎

同人

右口より別紙を

口並
栲山七左衛門

浪士殿

同人

右口より
ワノ殿

右口より別紙を

右口より別紙を
右口より別紙を

野崎同

書信方殿

小林八郎

金三殿

同人

右口より

浪士殿

右口より別紙を

右口より別紙を

燒火同

少書信也

聖教

經來信也

右月夕

口三教

同人

右月夕別後也

一十二月

燒火同

少書信也
長月利也

事下可也
海井後也

多機之也

杉年利母

能機市刀也

馬場也

右月夕也

古信料 名一

少幸作能
信口淨公死

左丁書子

右丁石山山初戸之信身山切年三言信年
並一通丁山信料 七言一
右一通丁高商大相及之信所一氣中
初兩書及山利程君之氣中 信程

一因一

到書

山島大書

素系伊信

一因一

右丁作身一 台大相及之信所

一吉乃丹海等死之身王命以及信忘中
有之也

一因一

山島大書

山崎宗信

天地為門

浪波

右市谷屋下平也之門一門榮位初則
後引利也動之有也

右市谷屋下平也之門一門榮位初則

一因七口

新書

大因付

安夜淨土抄

右市谷屋下平也之門一門榮位初則

一因八口

一主殿及後志明寺自了了也城也

一因九口今口付也也物也上能也也也也
上免也

一國

其十卷一四

市面

市面

信

信

右色書

右色書

一國

市面

市面

市面

市面

右於

一國

市面

市面

少力備家自信
休金古教
少力少力

田田情書

羽月

大板

時之

田田情書

右

右中 少別

莫春

草性

金

大少

右

右

一

莫春

田田情書

正木友也抄

合口如魚之口全在舌場可見之類和古字

一曰利在口和反作也

一曰古之商字於此書院恭如奉者之

中村橋

林口入

先友

井上因頌

弓

審井仙系

林口院

列乞

井上因頌

晴

大橋字頌

大橋字頌

初席

本因坊

伊豆若素

坂上仙供

一曰和

一日

橈

金

後

右

右

張

同

人

右

右

右

一日

右

右

右

右

右

右

右

右の羽子と申すは洋紙

御用向

左記

高橋十三郎

金平

信乃

右の羽子と申すは洋紙

焼方内

古記

張持

赤田

長坂

左記

大谷

張持

右の羽子

右の羽子と申すは洋紙

一回

右の羽子と申すは洋紙

前書

青柳の宿舎 後方色折笠と皮

大目井の宿舎 白木志磨の書

大目井の宿舎 大目井の宿舎

宿舎の宿舎 大目井の宿舎

大目井の宿舎 大目井の宿舎

大目井の宿舎 大目井の宿舎

大目井の宿舎 大目井の宿舎

大目井の宿舎 大目井の宿舎

大目井の宿舎 大目井の宿舎

大目井の宿舎 大目井の宿舎

大目井の宿舎 大目井の宿舎

大目井の宿舎 大目井の宿舎

大目井の宿舎 大目井の宿舎

大目井の宿舎 大目井の宿舎

カケの終い名あるカ

カケの終い名あるカ

カケの終い名あるカ

カケの終い名あるカ

カケの終い名あるカ

カケの終い名あるカ

カケの終い名あるカ

カケの終い名あるカ

十月廿二日 早書院書
永井 彦彦

カケの終い名あるカ
カケの終い名あるカ



